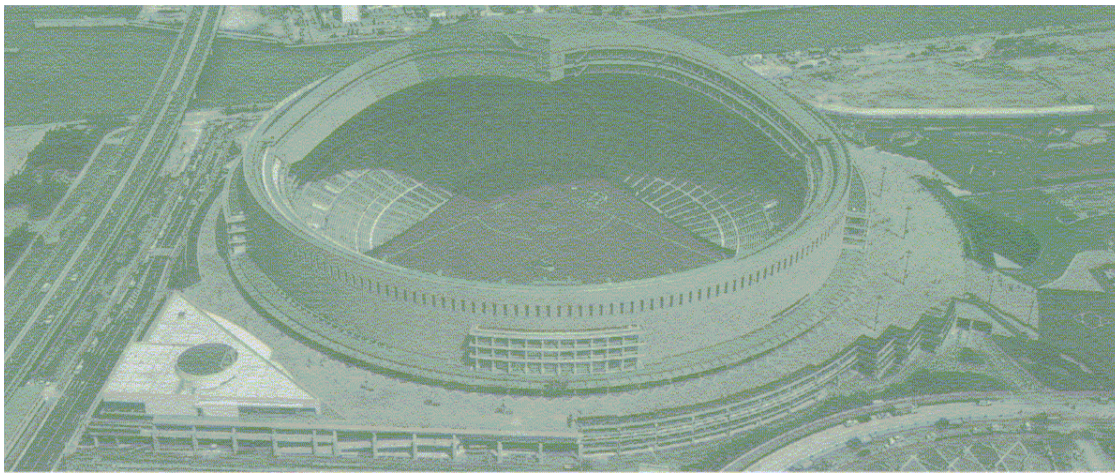


平成5年度 第1回視察研修会実施

－ 先端技術で注目される飯塚市と5万2千人収容の福岡ドーム －



1枚4000トンの屋根2枚が開閉する福岡ドーム(我が国初の開閉式ドーム)

当協会恒例の県外視察研修旅行は、西日本一極集中大都市の福岡と決まり、20名が参加して、9月17日実施された。

今回の視察先は、大分県ソフト協会創立五周年を記念して、福岡ドームと飯塚の2つのソフトウェア開発施設とした。

5万2千人の収容力と、3枚の鉄骨トラスパネルで構成される開閉式屋根の福岡ドームは一見の価値以上に驚かされた。

一方かつては炭坑都市として活躍した飯塚市が、新情報化都市として再スタートしており、その意気込みと活力に感心させられた。

県立飯塚研究開発センター及び㈱福岡ソフトウェアセンターは、いずれも今春完工したばかり、産学官協力による新研究センターで、ソフト技術の研究と人材育成が狙い。注目されたのは、県立飯塚研究開発センターにおけるファジィシステム研究所の設置で、これには一同びっくり。

今回の視察研修は内容豊富で、ハードスケジュールだったが、それだけ得るものも多く、今までにない勉強になった。

大分県ソフトウェア協会長 御手洗 克己

福岡県立飯塚研究開発センター

当センターは近年急速に需要が大きくなりましたASIC、FPGA、ファジィ研究室、マイコン(ICE)開発装置、開発用ワークステーション、各種測定機(オシロ、ロジアナ等)を揃えられ、開発研究の為に宿泊施設も利用できるたいへん素晴らしい設備です。

中でも、ファジィシステムは人間の思考過程や発想を模擬する方法で、山川九州工業大学情報工学部教授が世界で初めてワンチップ化し、高速化した過程を展示していました。

実演は、平行移動ができる機械に倒立する棒をセットし、ファジィ制御により棒を正立させ、ワイングラスにワインを注いでも棒が倒れないように制御するという、従来の方法では到底制御しきれないようなシステムも拝見いたしました。

応用についても、地下鉄の車両をスムーズに正しい位置に停止するような分野に実用化されているそうです。

当センターの設備はいろいろな産業に応用され、ますます期待されることと思います。

(㈱日出ハイテック情報技術課 古賀 士裕)

㈱福岡ソフトウェアセンター(飯塚市)

株式会社福岡ソフトウェアセンターは資本金10.47億円(国:4億円、県、飯塚市:各1.5億円、民間:3.47億円)。同市に立地する九州工業大学情報工学部、近畿大学工学部の各教授陣、民間技術者をバックに、人材育成、実践指導、事業幹旋等を軸に事業活動を行う第三セクターの組織でした。

産・学・官及び地域の人々との交流を考えたこれほどの空間、施設は大分にはないように思えます。特に研修施設(UNIXコンピュータなど)を自由に第三者に貸し出し地域情報産業の振興に役立てる施設は羨ましく感じました。

(TNBソフトウェア 佐藤 誠樹)

福岡ドーム(福岡市百道)

収容人数5万2千人、大分県下の高校生(約54,000人)をほぼ一度に収容できる程の大きさで、球場にいる人がほんの米粒程に感じられた。また真円形の造りのため、どの位置からでもアリーナを均等に眺められる理想的な構造になっており、野球の他にも展示会やコンサート等様々なイベントに使用されている。

日本一の球場面積と空間をもつ福岡ドームは、屋根の開閉に伴う光や風の影響が多いため空調、照明、音響等の調節は全てコンピュータにより管理されている。まさにハイテクを駆使した21世紀へ向けての新しい多目的のスペースであると感じた。

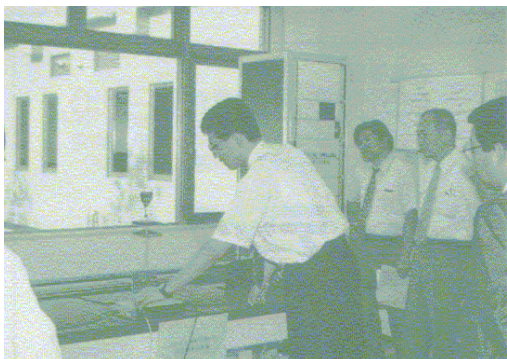
(富士通大分ソフトウェアラボラトリ総務課 植木 香奈子)

おわりに

情報産業都市飯塚市内の2つのソフトウェア開発、研修施設といま話題の福岡ドームの見学は予想以上に充実した内容でした。

また初めて女性の参加を得たことも収穫の一つでした。今後も多彩な研修対象と内容の充実に努力しますが、より多数の若い方々特に女性の参加をお願いします。

(理事 田中莞爾)



倒れそうで倒れないファジィ制御の実験



福岡県立飯塚研究開発センター



左記センター前での一行

新情報化人材像と国家試験の改訂について

一産業構造審議会 情報化人材対策小委員会報告 要旨一 (広報人材委員会)

1. 情報化人材対策の目的と必要性

通商産業省の情報化人材対策小委員会は今年の5月に、昨年12月の同小委員会の中間報告に基づき総合的な情報化人材育成推進策の最終報告を行った。

それによると、今後わが国の産業の高度化と経済活力を維持していくためには、情報化の飛躍的推進が不可欠で、それには良質の情報処理技術者の育成が急務であり、求められるべき情報処理技術者像の明確化とその効果的な育成について、解決すべき課題と対応の基本的な方向が示された。

最終報告では以下の項目について早急に実施すべき施策、今後実施するにあたり配慮すべき事項など可能な限り具体的に示された。

- (1) 標準カリキュラムの作成
 - (2) カリキュラムに連動した情報処理技術者試験制度のあり方
 - (3) 各機関における教育の体系化と強化方策
- なお、今後の情報処理技術の進展と諸環境の変化にも積極的に対応するとともに、実態との乖離、制度の硬直化から回避するため、カリキュラムをはじめとする各施策の適時適切な見直しの必要性が提言されている。

2. 人材養成の標準カリキュラム

標準カリキュラムは現在通商産業省の指導の下で、中央情報教育研究所 (CAIT) において以下の考え方に沿って策定中である。

(1) 標準カリキュラムの体系

情報化人材育成の基本となる標準カリキュラムでは、高度情報処理技術者別カリキュラムと、入社後5年程度までを対象とした共通カリキュラム (第一種、第二種) とに体系づけられている。

また、情報システムの利用者側における技術者育成の観点からの教育として、システムアドミニストレータの育成カリキュラムが新設されている。これもまた上級と初級に分けられている。

標準カリキュラムの体系概要

高度情報処理技術者育成カリキュラム (14種類)	システムアドミニストレータ育成カリキュラム (上級)
第一種共通カリキュラム (入社後3~5年程度相当)	
第二種共通カリキュラム (入社後1~3年程度相当)	(初級)

(2) 標準カリキュラムにおける配慮事項

- ① 基礎知識習得と実践力育成の両面の重視
共通カリキュラムではそれぞれの技術レベルに応じた知識・技術を明らかにし、必要知識の修得だけでなく知識の応用力の養成にも重点をおく必要がある。
- ② テキスト、研修用教材の開発・提供
カリキュラムに基づき情報処理振興事業協会 (IPA) およびCAITによるテキスト、研修教材の開発・提供の必要がある。
- ③ 実践力の養成のための教材および教育手法開発の必要性
◎シミュレーション型CAIシステム
◎実践的プロジェクト型演習教材

3. 試験制度の見直し

技術者分類および標準カリキュラムに基づき、現行5区分の試験区分を当面11区分に改訂し実施する。

(1) 実施時期と実施区分

- ① 実施時期：平成6年度秋から移行予定
- ② 実施区分：当面、11区分を実施

秋期実施区分

- ★システムアナリスト試験
- ★システム監査技術者試験
- ★アプリケーションエンジニア試験
- ★テクニカルスペシャリスト試験 (ネットワーク)
- ★第二種情報処理技術者試験
- ★システムアドミニストレータ試験 (初級)

春期実施区分

- ★プロジェクトマネージャー試験
- ★システム運用管理エンジニア試験
- ★プロダクションエンジニア試験
- ★テクニカルスペシャリスト試験 (データベース)
- ★第一種情報処理技術者試験
- ★第二種情報処理技術者試験

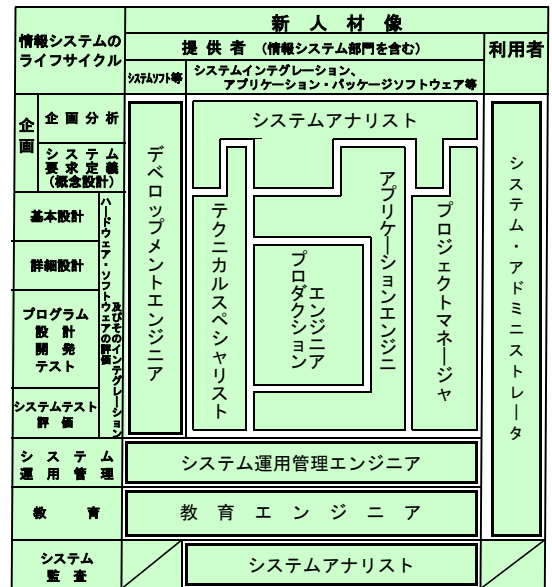
(2) 今後実施に向け検討する区分

- ◆テクニカルスペシャリスト試験 (ハードウェア/基礎ソフトウェア)
- ◆テクニカルスペシャリスト試験 (ソフトウェア生産技術)
- ◆デベロップメントエンジニア試験 (システムソフトウェア)
- ◆デベロップメントエンジニア試験 (マイコン応用システム)
- ◆システムアドミニストレータ試験 (上級)
- ◆教育エンジニア試験 (名称はいずれも仮称)

(3) 試験の一部免除制の導入

- ① 一部免除の対象範囲
座学および実・演習により修得可能である知識および技術。

情報化人材の類型



②一部免除の対象者

標準カリキュラム準拠の研修コースにより、適切な技術者教育を実施していると認められる機関が、一定基準により当該研修修了者の中から推薦した者。

③導入スケジュール

当面、「第一種情報処理技術者試験」について、CAITおよび地域ソフトウェアセンターを対象に実施する。

4. 現行試験区分と新試験区分との対応

現行試験区分と【新試験区分】との対応は次のとおりである。

- ★情報処理システム監査技術者試験
【システム監査技術者試験】
- ★特種情報処理技術者試験
【アプリケーションエンジニア試験】
- ★オンライン情報処理技術者試験
【テクニカルスペシャリスト試験 (ネットワーク)】
- ★第一種情報処理技術者試験
【第一種情報処理技術者試験】
- ★第二種情報処理技術者試験
【第二種情報処理技術者試験】

標準カリキュラム体系図により第一種、第二種の共通カリキュラムの概要が明らかにされた。ともに共通と選択に分かれ、各々知識と応用能力からなる。

SE的な能力がより強化され、第一種についてはプログラミング能力が削除され、新たにコミュニケーション能力、問題発見・解決能力などが加わった。第二種についても実践的な能力が追加され、ともに今まで以上に広範囲な能力が要求されるものと予想される。



- ・マイコン応用機器向けソフトウェア開発
- ・ステッパー (IC製造装置) メンテナンス業務

株式会社 アバール大分

〒871 大分県中津市豊田町3-8-10 イングビル3F ☎0979-24-5772 FAX0979-23-5397

第3セクター方式の 総合デザインハウス

営業種目

- ・半導体設計/評価/解析
- ・システム (ハード/ソフト) 設計、開発
- ・マイコン及マイコン応用システム開発
- ・スタッフサービス (派遣/業務請負)



本 社 大分県速見郡日出町大字大神1357番地 〒879-15
TEL (0977) 72-6111(代) FAX (0977) 72-1173
東京連絡所 東京都港区芝浦4丁目19番23号MS芝浦ビル(日本T1内) 〒108
TEL (03) 3769-8748(ダイヤルイン) FAX (03) 3457-7071

県ソフトウェア協会創立5周年記念行事のご案内 ソフトピア'93への協賛行事も盛大に開催

今年当協会創立5周年記念として、大分県主催の『ソフトピア'93』の協賛行事を盛大に催すとともに、全国情報化月間の10月に焦点を合わせた記念行事をもちます。5周年を祝して皆様の多数参加をお待ちしております。

創立5周年 ふれあいパーティ

当協会の創立5周年祝賀パーティを催します。会場では、会員会社の有志による「バンド演奏」も行い盛り上げます。また、会員のみでなく、会員会社の社員、家族等も参加できます。

景気は好転の兆しも見えませんが、こういう時こそ、会員が集い、相互の親睦、懇談のひとつときも必要でしょう。お誘い合せの上多数ご参加下さい。

1. 日時 10月24日(日曜日)
16:00~17:30
2. 場所 大分第二ソフィアプラザビル
(大分市東春日町ソフトパーク内)
3. 会費 2,000円パーティ券は事前販売中
詳細内容照会先
県ソフトウェア協会事務局
TEL 36-1267

「5周年ふれあいパーティ」は、当日行われる「サウンズ・コンテスト On The Computer」(当協会主催)に引き続いて開催しますので、是非「サウンズ・コンテスト」にもご来場下さるようご案内します。

特別サウンズ・コンテスト

コンピュータを使って作曲したり、編曲した作品を公募して、コンクールを行います。皆さんが仕事の合間に、また趣味として、日頃パソコンの音源やシンセサイザを使って実現した様々な音楽で応募できます。また立派な曲がたくさん集まる見込みですので、皆様お揃いで聴きにおいで下さい。

サウンズ・コンテスト開催案内

応募作品の発表会と優秀作品の表彰式を行います。

1. 日時 10月24日(日曜日)
13:30~15:30
2. 場所 大分第二ソフィアプラザビル
(大分市東春日町ソフトパーク内)
会場の皆様にもラッキーくじの抽選があります。
サウンズコンテストに続いて、同会場で当協会の創立5周年祝賀パーティを催します。
引続きご参加下さい。
なお、コンテスト開催前に、同日午前11時30分より約3時間、作曲要領のセミナーも開きます。

作品応募要領

応募宛先 大分市下郡工業団地北入口
ゴードービジネスマシン(株)内
ソフト協展示推進委員会事務局
TEL 68-4600

応募期限 10月15日(金)まで
詳しくは、上記へご照会下さい。



楽器が弾けなくても容易に作曲ができる
・パソコンの五線紙画面にマウスで入力。
・作った曲は音源ディスクから音響装置で聞く。
・妥当性チェックもソフトがしてくれる。
キーボードからの入力はもちろん

第5回OSA技術交流会

テーマ 「新しいコンピューティングの可能性を探る」
日時 10月27日(水曜日)
13:00~17:20
(受付開始12:30)
会場 富士通大分システムラボラトリ

1. ご挨拶 会長、来賓、委員長
 2. 報告 「OSA会員技術情報資料」
報告者 川又英二副委員長
 3. 基調講演 「Windowsの戦略」
講師 マイクロソフト(株)
第2営業部 箕浦幸雄課長
 4. 事例発表
 1. 「PCLANの運用環境」
発表者 清松 匡 SE (株オーガス)
 2. 「音声FAXの情報サービス」
発表者 志村泰彦課長
(ゴードービジネスマシン(株)システム課)
 3. 「LAN導入事例」
発表者 相田二三春課長
(株広瀬装研システム課)
- なお近接して左記のふれあいパーティを開催

自己啓発見学会報告

啓発交流委員会は去る9月28日午後、下記2社の見学会を行った。参加人員30名。

大分合同新聞社

100人を超す記者からの記事の内容チェック、掲載する記事の選択、見出しつけ、紙面の編集等々を分刻みで進める作業が予想以上に大変だということがよく理解できた。

これら一連の作業を支える大規模なシステムがほぼ完成していたのは驚きであった。

すべての記者がワープロで入力した記事の集配信システム、文章の論理性を保ちながら瞬時に修正する編集支援システム、紙面の編制をほぼ自動的に行う組版システム等、新聞社においてもソフトウェアがインフラになっていることをあらためて知った。



紙面の自動編制をする組版システム

タカキ製作所

同社は社員80名の小企業ながら、精密板金加工と精密メカトロニクス設計製作を中心として、東芝、ATT、TI等に納入している優良企業である。戦後リヤカーの製作から出発して現在の業容に至った。社会のニーズを先取りし機敏に対応し

た鋭い経営センスは刮目に値する。高木社長は「不況の今こそチャンス」と考え企業基盤の安定化、強化を進めるため新鋭工作機の導入、積極的な人材の採用を行うとのこと。不況下の我々にも大いなる示唆を与えて戴いた見学会となった。

(啓発交流委員会)



CADシステムを駆使した設計作業

〈明日の暮らしを創る〉



株式会社 オーシー

本社
〒870 大分市末広町2-3-28 TEL (37)0404

- OCカード
- 旅行(航空券、JR券の発券、団体旅行はOCTラベルへ)
- システム開発
- その他フレッジット関連

パネルディスカッション **これからの情報化社会を考える**
— 生き残るための企業戦略 —

コーディネーター 社情報サービス産業協会顧問 名木田兵二氏
平成5年6月4日 第11回全情協大会「ANIA おかやまフォーラム」

立場	パネリスト	1. 当面の短期的問題	2. 中長期的戦略	3. 地域情報サービス業へのアドバイスほか
ソフトウェア業界	社情報サービス産業協会会長 高原 友生 氏 (CRC総合研究所社長)	①バブル崩壊後、システム投資は企業のコスト削減対象にされているが、システムコストはインフラ(資産)としての認識がほしい。 ②上記と併行してダウンサイジングなど技術の地殻変動が進行している。 ③ハードメーカーがソフト業界の分野へ転換中。	①電話加入権数5,900万、端末もそれ位になる。将来には膨大な市場が待っている。 ②地公体、学校が今後の一大市場になる。 ③雇用調整制度を活用して人材育成すべき時期。 ④金融制度の改革にも業界として取り組む必要。 ⑤契約書の国際的標準化…国際会議準備中。	①生き残る条件とはすべての「界」を味方につけること。政界、行政、教育界の理解支援と界自身の情報化推進。マスコミには啓蒙を。 ②我々自身の技術力を高めること。新しい国家試験制度に遅れないこと。
ユーザーの立場	社日本情報システムユーザー協会理事長 伊藤 正雄 氏 (新日鉄情報通信システム課会長)	①企業経営とツール(コンピュータなど)は車の両輪である筈だが、情報化投資に対する企業マインドが低下している。 ②ダウンサイジング下では複合ツールが有効である。 ③分散化では人とコンピュータの組合せ方が重要。 ④オープン化への標準化、多様な組合せの下での安全性確立が必要である。	不況の中でユーザー企業が目覚めたもの ①経営ツールがどう組合わされていくべきか。企業の戦略企画段階から考えねばならない。 ②人材の高度化、専門化…インテグレーターが必要 ソフトウェア業界は上記ユーザー企業マインドの変化に対応した行動をとるべきである。	中堅、中小企業の情報化について ①経営者の決意。 ②企業経営の本質に根ざした仕組みに目を向ける。 ③企業全体をカバーするシステム化を。各システムの有機的結合が重要になる。 ④分散化に対応した人とコンピュータの関係向上。 ⑤信頼できるパートナーを選ぶこと。
メーカーの立場	日本アイ・ピー・エム(株)常務 鹿嶋 堅資 氏 (同社ソリューション統括本部長を経て金融システム事業本部長)	①情報サービス産業の高度成長は終わり、安定成長へ向かう。 ②システム投資はノンハードウェア部門が増える。 ③省力化、合理化、効率化から活性化、戦略化へユーザーの投資が変わりつつある。…S I S ④情報システム技術の地殻変動：上記の流れに対応してメーカーもリストラクチャリング中。	①プロダクト供給からソリューション供給へシステム、アプリケーション、ビジネス各分野で。経営のライフサイクル全体をカバーするソリューションを。 ②S I ビジネスへ(人材派遣業からの脱却)。サービスのモノ化→複写可能、品質の維持 ③専門技術者の処遇→取締役までなれる制度。	①メーカーとソフト業者の協業は必須。 IBMもソリューション化で60社と提携。 ②新社会資本投資は要注目。 地公体、学校などが大市場になる ③パッケージ販売にはコンサルティングから入り、ユーザー側をパッケージに合わせさせる努力が肝要。
パソコンソフト業界	日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会会長 浮川 和宣 氏 (株ジャストシステム社長)	①ダウンサイジングはパソコン、WSを重視する流れ。パソコンソフト売上 昨年は109%の伸び。 ②パッケージソフトは今後日本で大きな市場になる。ソフト市場のシェア：米国50%、日本6~7% パソコン1台当たり：米国5本、日本1本 ③次の世代へ残すソフト資産への投資が必要。	①従来より高度な技術力が要求される。そこにビジネスチャンスも生まれる。特にネットワーク(グループワーキングなど)、マルチメディア ②新しいハードに対応したソフトが新市場。携帯用が50%に達しているがソフトは不十分。	①当社は地域から出たが時流に乗るソフト(一太郎)の開発にすべてを投入した…非常に苦しかった。現在は海外市場を開拓するまでになった。 ②サービスのモノ化…パッケージソフト、コンサルティング。そのための発想変換が必要。プロダクトを持てばPRも楽、求人も楽。
システムハウス業界	日本システムハウス協会副会長 三田 輝 氏 (アンドールシステムサポート(株)社長)	①システムハウスはハード、ソフトを組合せた製造業で、極めて多様でパターン化していない業界。 ②マイコンエンジニアの養成が急務。国家資格の制定を検討中。 ③従来はユーザーから与えられたものの消化のみ。デザインエンジニアを育成して提案ビジネスへ。	①3 K職場のイメージチェンジが必要→“創造業”へシステムハウスマンの誇りと名誉を与えることが課題 ②円高の影響：得意先の海外脱出…国内の空洞化これに対しても創造的人材の育成とその評価システムが必要。	①地域にしがみついた時代ではない。独特の技術はメーカーも欲しい筈。中央との補充関係は地域を超越して。 ②協会が会員の中からパートナーを斡旋している。
行政	通産省情報処理振興課課長補佐 岸本 道弘 氏	ソフトウェア業界に対する国の姿勢 ①ソフト業界は基本環境の整備が未熟。担保力が弱い、人材育成の不足など産業としての基盤確立が急がれる…これを政策で支える。 ②将来日本の付加価値を支える分野との位置づけに基づき税制面、融資面で支援している。	①サービスの価値評価の仕組みを作る必要。従来の人月主義は古いのでは？ ②パッケージソフトの価格は流通量に応じて下げよ。 ③新社会資本…トップダウンで出てきたもので具体化には問題が多い。(特に現場) ソフト業界から地方自治体への提言を求む。	①地域の情報化にはまだ余地がある。現在は中央から地域への流れが主流。 ②中小企業の情報化も今後本格化する。ダウンサイジングの流れに対応すべきは地域側ではないか。

(文責：理事 後藤昌弘)

CAIT企業内リーダー養成セミナー

構造化分析、設計技法を中心とした「ソフトウェア開発技術」大分開催
ケーススタディを通じて、「構造化分析」「構造化設計」が応用・指導できるように訓練。「よいソフトウェアとは」を把握し「よいソフトウェア」を作成することの重要性を体得。
講師 ワイ・ケー情報企画 国友義久氏
開催日 平成5年10月20日~22日の3日間
時間 9:30~16:30(17:00頃までになることも)
場所 大分市ソフトパークセンタービル
研修料 当協会員44,000円(一般46,300円)
※主催者は情報処理技術者試験も行う公益機関で、通産省人材育成施策の一環として、大分でも地方開催されるものです。
(広報人材委員会)

新入会員紹介

●**㈱ワコム大分開発センター** 所長 村田常治
本社埼玉県。大分従業員3名。(賛助会員)
ソフト開発ツールdbMAGIC、CADソフト、電子ペンほか。
所在地 大分市東春日町51-8
大分ソフィアプラザ4F

●**新鶴海興産(株)** 代表取締役社長 田中英敏
担当 電気計測事業部 亀川 晃
従業員477名。(内ソフト関係32名)ソフト関連事業10%。
半導体関連検査装置のソフトが得意。
所在地 大分市大字三佐 2468番地10
TEL(0975)27-2190 FAX11-1438

県ソフトウェア協会会員募集

会則改定により、ソフト開発を事業としていない企業も加入できるようになりました。新入会員も続々と増えていますが、更に会員を増強するため、皆様のご協力をお願いします。(中田前理事の後任として理事)
理事代行紹介
㈱富士通大分ソフトウェアラボラトリー 代表取締役 藤田勝久
ご挨拶
技術革新や環境変化が急速に展開される中、今こそ会員相互の研鑽、情報交流の持つ真価が発揮される時と思います。
協会の極めて真面目で活発な活



略歴
昭和8年生。富士通通人事務労働部長、㈱富士通経営研究所代表取締役専務を経て、本年6月に現職。大分市出身。

編集後記

○当協会創立5周年記念行事がソフトピア'93を中心に盛大に開催されます。特に10月24日の日曜日午後は「特別サウンズ・コンテスト On The Computer」とその後の創立5周年ふれあいパーティーには、会員各社の従業員の方々に積極的ご参加をお願いします。ソフトウェア協会のお祭りです。
○技術交流委員会の高木委員長が親会社の三井造船に転任され、後任委員長に三井造船システム技研(株)大分事業所の池田SE部長が選任されました。高木氏には副委員長2年、委員長2年半の長きに亘り、技術交流委員会の今日の隆盛を築いて頂き、誠に苦労様でした。衷心より謝意を表します。
○OSAニュースの企業PRが、次号から再び正会員の名簿順に戻ります。これまで掲載されなかった会員に、優先的にご案内していきますので、是非ご協力下さいませようお願いいたします。
(広報人材委員会)

1993. 10. 1発行
発行：大分県ソフトウェア協会
会長 御手洗克己
編集：広報人材委員会
事務局 大分市城崎町2-6-31
(大銀コンピュータサービス(株)内)
TEL(0975)37-5918 FAX(0975)34-4545
印刷：佐伯印刷株式会社

HUMAN TECHNO ENGINEERING

人と技術の調和をめざす頭脳集団

- ・バーン・イン関連システム開発
- ・画像処理関連システム開発
- ・検査装置関連システム開発
- ・自動化装置関連システム開発

STK 新鶴海興産株式会社

〒870-01 大分市大字三佐2468番地10 TEL.0975-27-2190代 FAX0975-21-1438